

第5回千代田区まちづくりプラットフォームのあり方検討会 議事要旨

日時	令和6年1月22日（月）13時30分～16時30分
会場	千代田区役所8階 第1・第2委員会室
出席	13名（4名欠席）
議題	（1）第4回検討会での意見対応について （2）千代田区まちづくりプラットフォームのあり方について （3）実証実験について

議事要旨

- 開会

資料説明（事務局より）

- （1）第4回検討会での意見対応について
- （2）千代田区まちづくりプラットフォームのあり方について
- （3）実証実験について

- 資料1に基づき、今後の検討スケジュールが説明された。
- 資料2に基づき、第4回検討会での委員指摘を受けての対応等が説明された。
- 資料3、4に基づき、千代田区におけるまちづくりプラットフォームのあり方素案の全体像や各機能が説明された。
- 資料5に基づき、神保町における実証実験の概要が説明された。
- 本日の検討会は、参加した委員を3つのグループに分け、グループごとに千代田区まちづくりプラットフォームのあり方素案（案）、神保町における実証実験について議論をするグループディスカッションの形式とし、各グループの代表者が議論内容を発表し、それに対して有識者からコメントをいただく流れで進めることが説明された。

グループ①の発表内容

- グループ①は、4つのテーマで議論をした。
- 1点目、プラットフォームのあり方の心がけについて、地域や行政といった立場によって価値観や考え方が様々であるが、地域や行政に関わらず、地域住民の話をしっかりと聞くことが重要であるという共通認識を得た。また、利害関係にない第三者（住民ではない等）についても聞くことができる機会があることが重要であることも議論した。
- 2点目、プラットフォームのあり方素案について、資料4の25ページに掲載のある仕組みの図解は、再開発のプロジェクトを進めていく仕組みに見えてしまうという指摘が挙がった。また、最初から型を構築して進めていくのではなく、まちづくりに関して議論されたことがフィードバックされて改善していく仕組みとなることが大事であるという話をした。加えて、千代田区は大学が多数あり、各大学・各研究室でまちづくりに関する様々な取り組みがされており、知見が蓄積されているため、まちづくりに反映していくことが重要であるという意見も挙がった。
- 3点目、実証実験の周知方法について、協議会やサポーターズのメンバーの選定における透明性が

大事であるということについて議論をした。参加する方々が、どういうプロセスで選ばれて、どのような立場から発言されているかが示されていると、皆さんへの説得力につながるという意見が挙がった。また、意見交換会の周知は、地域では口コミが大きな影響を持っているという意見が挙がった。別地域のまちづくりの意見交換会の際に、口コミにより様々な立場の方が参加して、有意義な会となったことがあると話題提供もあった。

- 4点目、実証実験の意見・質問について、資料5において神保町のまちの変化と課題が説明されているが、まちの変化に対して、記載されている課題にギャップがあるという意見が挙がった。マンションが増加していると記載がある一方で、個別ヒアリングの結果では人口が減少しているとの記載もあり、情報が不足していることが理由であるという話をした。また、まちの変化、例えば、マンション立地の増加、店舗の減少などは数値で捉えられるが、その事象に対する意見は様々なものが挙がってくるため、価値観や神保町に対するイメージなどが、今後のまちづくりに対する意見に反映されるのではないかと議論をした。そのような価値観や神保町に対するイメージなど形として見えないものも把握していくことが重要であるという共通認識を得た。

グループ①の発表に対するコメント

- しっかり話を聞く第三者の存在が大事であること、フィードバックを進める仕組みをどう構築していくかという観点からのご意見をいただいた。
- また、プラットフォームのあり方素案は、都市開発の事業を契機としたプラットフォームを作るプロセスをまとめているが、事業後に組織を活かしていくような内容が必要であるという意見をいただいた。
- 関連して、大学の地域研究や知見の蓄積を活かすような仕組み、あるいはデータベースを作っていければ良いというご意見もいただいた。神保町の実証実験については、今後のまちづくりのイメージを整理・共有していけるような取り組みが重要であるというご意見をいただいた。

グループ②の発表

- 1点目、あり方素案に示された内容を受けて、周りの理解を得るためには、自分の意見に近い人から意見を束ねて、最終的にまとめていく方法が良いのではないかと意見が挙がった。皆が、知っている・気にしているテーマから話を始め、議論の取っ掛かりを設けて、議論の参加者が情報把握（インプット）と意見発信（アウトプット）を繰り返していくことによって、まちづくりに対する理解を得ていくことできるのではないかと話がされた。また、議論の際には、考えの異なる意見の背景を想像すること、考え方が異なる相手に質問を投げかけて、考え方が異なることに対して理解を深めていくことも重要であると議論した。
- 2点目、あり方素案について、人材育成において、人材の発掘・育成にはまちみらい千代田の機能を拡充することが良いのではないと意見が挙がった。次に、連携方策は、エリアマネジメント団体のような組織と連携するのが良いのではないかと意見が挙がった。次に、まちづくりに対する各々のアイデアと合意形成のプロセスを大事にしていくためには、アンケートや無作為抽出のワークショップを採用することが良いのではないと意見が挙がった。他方で、町会に加入して、活発なコミュニケーションをとってもらい、基本的なまちの状況や、まちの課題認識を含めて共有が図られると良いという意見が挙がった。
- 3点目、実証実験の進め方について、防災など共通の話題をテーマとした議論をすること、これが

らどういうイメージが神保町のまちにふさわしいかを議論することが良いのではないかという意見が挙げられた。次に、実証実験の準備として、既存データ（登記データ、人流データ、商業活動データ等）を活用して、神保町の分析が必要であるという意見も挙げられた。次に、イベントを仕掛けることによって、まちの課題を共有することが良いのではないかという意見が挙げられた。例えば、駐車場になっている空間をイベント会場として、駐車場から商業ビルなどの他の用途になった際のまちを想像してもらうことをきっかけとするなどのアイデアが出された。実践的に神保町のことを知ったり、学んだりすることができる機会をイベントとセットで実施していくのが良いのではないかという意見が挙げられた。その際には、住民以外の来街者が来ることも想定されるので、神保町に頻繁に訪れる人、あまり神保町に訪れない人で意見を分けた方が良いという意見が挙げられた。次に、神保町にある大学の中で、神保町に価値を見出している研究者と連携できると良いという意見が挙げられた。

- 4点目、実証実験の意見・その他について、地域性を活かすために、昔からある小さな店舗を1つのビルに集約して、まちを活性化することはどうかという意見が挙げられた。また、新旧の店舗が良好な関係で継続できるような仕組みができると良いということも話し合った。次に、インクルーシブ（包括的）な意見の収集について議論をし、例えば、障害者や子どもがいる家庭について、実証実験の視点に加えてほしいという意見が挙げられた。

グループ②の発表に対するコメント

- 議論に参加する人が意見の背景を知り、議論をする人同士でイメージが想像できるような議論の進め方ができれば良いというご意見をいただいた。
- 実証実験については、神保町について共通して参加できる防災のテーマから入って、具体的な将来像を探っていくという進め方をご提案いただいた。また、まちに来たいと思う人、住んでいる人だけでなく期待している人からも幅広く意見を集める、まちのことを知ったり学んだりするような機会が重要であり、将来的に関わりたいと思っている方に話を聞くのも重要な観点であると感じた。

グループ③の発表内容

- 1点目、あり方素案に関して心がけることについて、説明者はデータを示しながら伝えていくこととともに、聞き手の意見を聞くことが大切であるという意見が挙げられた。また、千代田区では昼間人口が多いという特徴があるので、企業に勤める方の意見も収集することができると良いという補足があった。その他、千代田区に転入する方や転入を予定している方のニーズを把握して、千代田区のポテンシャルを分析することが良いのではないかという意見もでていた。また、良いまちにしていくために、区民や在勤の方は何ができるのか、何をしていけるのかというように自分事としていけるような問いかけや投げかけ方が大切であるという意見が挙げられた。
- 2点目、あり方素案の意見について、初期にどういう支援がなされるのかより一段具体的に深ぼることや、サイレントマジョリティーの意見を聞くことが大事ではないかという意見が挙げられた。具体的な支援のイメージについて、誰が見てもわかるものにするために、ペルソナ分析などを用いて具体的な支援プロセスを示し、誰にでも、あらゆる世代からも関心をもってもらうような取り組みができるのではないかというアイデアが出された。同様に、行政が支援する際に、どのように現場において対応するのかについても、ペルソナ分析・設定をすることで、支援提供側のプロセスや役割もより具体化されて良いという意見が挙げられた。次に、あり方素案の記載内容は、行政の固い言

葉だけではなく、キャッチーな表現があっても良いのではないかという意見も挙がった。次に、プラットフォームのあり方自体の議論が、まちづくりにおけるツールのお話をしているため、どう使うかだけでなく、より良いまちを作るために何が必要かとかなぜまちづくりを行うのかについても議論が深められると良いということを議論した。プラットフォームというツールを使いながら、各地域のまちづくりの目的やビジョンの部分の意見を吸い上げて、ツールにフィードバックしていくという位置付けを示すことができると良いという意見が挙がった。

- 3点目、実証実験について、誰もが参画しやすいようにワンストップの窓口を設けることが必要ではないかということを議論した。公共空間を使った実証実験であるため、町会の連携が重要になり、町会の方々を調整する窓口は景観・都市計画課ではなく他の課が関係することもあるため、庁内調整という意味で窓口のワンストップ化の議論が展開された。次に、実証実験自体がワクワクするテーマであると興味深いものになり、例えば、「未来の」神保町地域をテーマとすると参画したくなるのではないかという意見が挙がった。
- 4点目、実証実験の意見について、現段階では、実証実験は区からのアプローチで神保町に働きかけて進めているが、区民からの自発的なアプローチが行えるような仕組みがあると良いという意見が挙がった。次に、実証実験を踏まて、次につながるような仕組みやまちづくりの大義につなげることが重要ではないかという意見が挙がった。次に、実証実験の仮説とプラットフォームのスキーム図の関係性が理解しにくいという意見が挙がった。今回の実証実験を踏まえて、まちづくりプラットフォームのスキームにどのように反映していくのかを見据えて、実証実験の内容を検討できると今後の神保町におけるまちづくりの大義に繋げていけるのではないかと意見が挙がった。

グループ③の発表に対するコメント

- データを示すことが重要であるとお話をいただいた。データをしっかり活用して客観的に見ること、データによって可視化されたまちづくりのポテンシャルがある人や地域に対してご意見を伺うこともありうる。現在の住民だけではなく、今後千代田区に住みたいと考えている方やまちに関わりたいという方のご意見を伺うことも重要である。ペルソナ分析について、これまでは一般論・抽象的な議論をしてきたため、ペルソナを立てることによって、あるいは地域を具体的に統計データで分析することによって、もっと深い議論ができそうである。
- この検討会が発足された当初は、まちづくりのツールについての議論を中心にすえており、ツールとしての組織の議論を深めてきたが、出来上がった組織について、当初の目的に限定したツールとして終わらせるのではなく、地域のあるべき姿を引き出していくような場にするという位置付けをもっと強く認識する必要があると強調していただいた。
- 神保町について、ワクワクするテーマや未来に向けたテーマも含めて検討していくことによって参加者の意識が高まる可能性があることが示された。

グループディスカッションの総括コメント

- あり方素案について、関連するデータの示し方、デザインの仕方について、行政内部での議論だけでは気づけないことが多くあった。利害が対立するような場合は、双方を示すことができるようなデータが準備できるかが課題であると感じた。また、人材育成について、行政の中でまちづくりをいかに検証していくか、プラットフォーム自体をいかに更新していくかといった観点から、人材の育成・成長も重要であると感じた。

- 実証実験について、議論の進め方の見える化・透明化に関するご意見を多くいただいたと認識している。また、地域に新たに入ってきた人、地域から出ていった人に着目して分析することも必要であると感じた。
- 次回の第6回目の検討会は3月に開催される予定である。本日のグループからの意見をまとめて、反映させてほしい。
- グループで出てきた検証プロセスというのがこの素案の中に明記されていなかったなど改めて感じた。素案の中で、冒頭で明示しておいた方が良い。
- 意見交換、合意形成、いずれにしても信頼性をどうやって確保していくのかということが改めて大事だと感じた。無作為抽出や代表性の考え方を一定程度確保していくことが重要である。例えば、地域住民の中にも様々な人があり、意見の持ちようというのは異なる。神保町の実証実験においては、ワンルームマンションの住民が町会に入ることが少なくなっているという課題があるため、その方達の意見を吸い上げないと、意見交換の結果に対する信頼性は生まれない。プロセスの明示についても、意見交換におけるファシリテーター役はかなり大事であり、どちらかの立場に立っているとされた瞬間に、その意見交換というのが本当に無駄なものになると感じる人も多い。
- 地域住民には多様性があり、様々な人とコミュニケーションをとって、楽しみながら考える機会が設けられており、その上で意見交換ができるスキームがあると良いと感じた。また、未来の住民である子どもたちがどのように関わっていくのかという仕掛けも作れると良い。千代田区においては、大学との関わりは強いが、小学校・中学校との連携をさらに強化できると良い。他方で、千代田区は様々なサービスの質が高いため、一定程度、障害を持った子どもたちが千代田区の教育機関を選択しており、その割合が増えてきている。その子どもたちと関わりを持つと自ずと親とも関わりが生まれるため、まちづくりの話し合いに子どもたちの参画を促していくのは有用であると感じた。
- 実証実験の議論において、あり方素案にフィードバックできるようなヒントが出されたかと思う。実証実験の準備として、リレー方式でヒアリングを実施し、様々な人とコミュニケーションをとったと思う。他方で、リレー方式では届かない人達がいるため、どんな方法でたどり着くことができるかを本グループでは議論した。その中で、イベントを実施して、関わりを持つことによってご意見をいただくというアイデアが出た。
- 会社が千代田区にあって、楽しく活動しており充実している。理由として、千代田区に何かの魅力があるからだと思っている。例えば、近所に散歩したくなるようなまちは、良いまちだと思う。東京のほとんどの場所では、特定の施設や場所に閉じこもっていたいって思わせるような作りになりがちであるが、千代田区はぶらぶら歩きたいまちであるということは、住んでいる人にも外の人にとっても、魅力的なものになると思う。また、地方は経済的にもひっ迫しているため、必死でまちを良くしていく必要がある。一方で、千代田区は経済的には余裕があるかもしれないが、一地方自治体の千代田区として、どのようにしたら自分たちが居心地の良いまちになるか、千代田区に行きたいと思うようなまちになるかを、このプラットフォームのあり方検討会で議論していければ良いと思う。
- 私のテーブルには専門家と言っても過言ではないような方々で構成されていたので、サイレントマジョリティーをどうするのかとか、ペルソナをどうしたら良いのかという話や大義に結びつけていくことが非常に重要だというような細かい具体的な意見が出された。その中で、まちづくりにおける器をずっと議論してきたのではないかとのご指摘が挙がった。まちのイシュー（問題）を具体的に表に出して形にしていくこと、大義にしていくこと、手法に落とし込んでいくことなどをそれ

それぞれの地域で実現するツールがまちづくりプラットフォームであり、さまざまな想いを形にしてい
くようなものとして機能していくと良いと改めて感じた。

- 本日の検討会は、テーブルに分かれて議論したことで、多くのご意見をいただけたと感じる。各々の考えが明確に理解できたことで、これまでにないアイデアが出てきた。このように、議論する場を作る機能はプラットフォームにとって重要であると改めて感じた。また、本日の会でも出されたご意見は、類似のものでまとめて整理するのではなく、一つ一つのご意見を整理いただいて、どのように対応していくかを必ず出していただきたい。
- 本検討会は、役所の縦割り行政の中における景観・都市計画課から発せられた会議体であり、そのため、都市開発の事業の話題から議論を始めることが多いが、決してそれだけで終わらせるのではなく、まちづくりの関連テーマや地域の将来像を包含していくというものであると考えている。まちづくりにおけるツールの議論ではあるが、目指すまちを関係者で議論する場にまで引き上げていくような内容に仕立て上げていただきたい。
- また、財源に関する話題があらゆる方向から出てくると思うため、他自治体における事例の整理をしてほしい。また、委員からあったように、地方は本当に必死になっていて、財源としては、ふるさと納税を活用しているが、千代田区でもふるさと納税の活用について検討ができると良い。
- ふるさと納税の積極的な利用などは、東京都や23区で足並みを揃えていく必要はあるかと思うが、千代田区にはかなりの大企業が揃っていることに対し、民間の力を活用できるような制度が不足していると思う。本検討会を契機に、そうした財源の議論を展開していただきたい。関連して、研究会の場で、一般財源の1%を住民の方々がやりたい事業に使用するという制度を取られている自治体もあるとお聞きしている。一地方自治体として、東京都区部以外の他の地方都市の必死な取り組みを視野に入れ、参考にしながらぜひ並行して検討していただきたい。

閉会